

「訳語」の向こう ～世界の捉え方の違いを知る～

東京外国語大学 加藤晴子

概 要

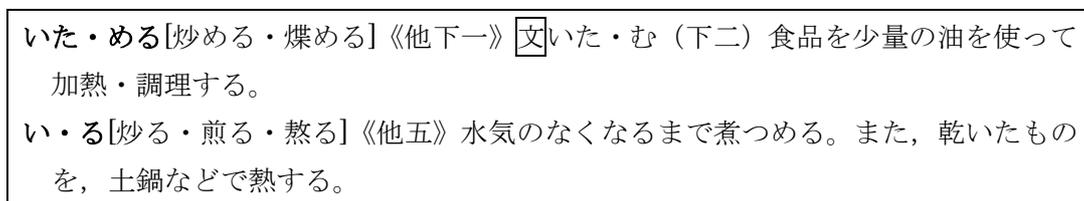
外国語の学習に辞書は不可欠です。学習中にわからない言葉があったとき、辞書を引けばその言葉の「訳語」が載っていて、わかった気持ちになります。しかし、もとの言葉とその「訳語」とが、本当に同じことを言っているかどうかについては、実はあやしいことも多く、微妙な違いの裏側に、世界の捉え方の違いが潜んでいることもあるのです。

■中日辞書を引いてみる——“炒”



小学館『中日辞典』第3版 p.197 より (2以下省略)

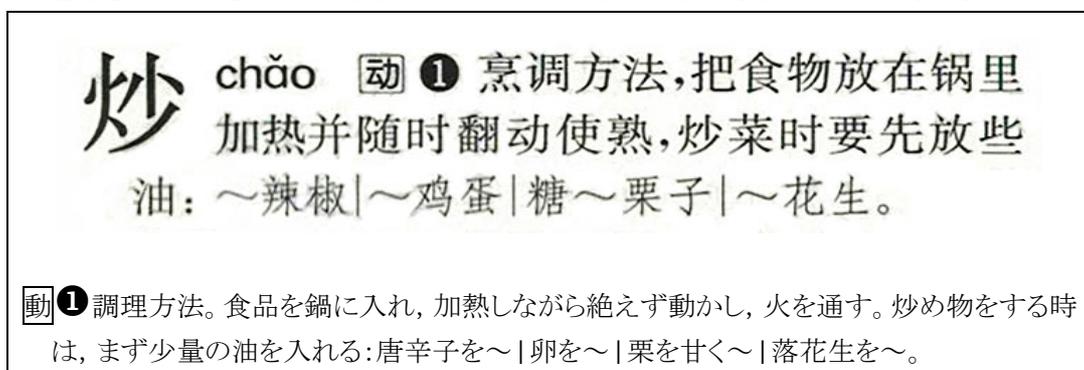
■日本語の「炒める」と「いる」の違いは何か



岩波書店『広辞苑』第六版 p.161 および p.207 より (原文は縦書き, 用例省略)

❖ 食材に加熱すること。油ありが「炒める」、水分なしが「いる」。

■中中辞書を引いてみる——中国語の“炒”と日本語の「炒める」は本当に同じなのか



商务印书馆《现代汉语词典》第7版 (2以下省略)

❖ 食材に加熱すること。油はある場合とない場合がある。+絶えず動かす。(日本語と異なる要素)

■ “炒酸奶 chǎo suānnǎi” ▶ 訳せば「炒めヨーグルト」!?



http://www.iqiyi.com/w_19rw2nnqph.html



http://www.iqiyi.com/w_19rvdxniuuh.html

日本語では、「食材が油とともに混ざり、火が通って味がついた状態になること。」という**結果**がもたらされることをいうのに対し、中国語では、「へら状のもので広げた食材を大きく掻き回しながら混ぜること。」という**動き**に着目するのではないか。▶ 確認のため、他の動詞も見る

■ 次の動作を考えてみる

A グループ

- ・ 黒板をけす
- ・ 窓をみがく
- ・ ペンキをぬる
- ・ テーブルをふく

B グループ

- ・ 紙をきる
- ・ 野菜をきる
- ・ 木をきる
- ・ 材木をきる

■ 中国語の場合

❖ A グループは**同じ**動詞を使う。

[黒板を]けす, [窓を]みがく, [ペンキを]ぬる, [テーブルを]ふく, 他に[汗を]ぬぐう, [大根を]おろす
→ 擦 cā

❖ B グループは**違う**動詞を使う。

[ハサミで]きる, [包丁で]きる, [斧で]きる, [のこぎりで]きる, 他に[剣で]きる, [鎌で]きる
→ 剪 jiǎn[ハサミで], 切 qiē[包丁で], 砍 kǎn[斧で], 锯 jù[のこぎりで], 斩 zhǎn[剣で], 割 gē[鎌で]

■ 日本語の場合

❖ A グループは**違う**動詞を使う。

[黒板を]けす, [窓を]みがく, [ペンキを]ぬる, [テーブルを]ふく, [汗を]ぬぐう, [大根を]おろす

❖ B グループは**同じ**動詞を使う。

[ハサミで]きる, [包丁で]きる, [斧で]きる, [のこぎりで]きる, 他に[剣で]きる, [鎌で]きる

同じ動詞を使うには何か共通点がある筈。それは何か。

❖ [黒板を]けす, [窓を]みがく, [ペンキを]ぬる, [テーブルを]ふく, [汗を]ぬぐう, [大根を]おろす
の共通点：**動き**がほぼ同じ。「体の前面で手を平面に沿って行き来させる」**動き**。

❖ [ハサミで]きる, [包丁で]きる, [斧で]きる, [のこぎりで]きる, [剣で]きる, [鎌で]きる
の共通点：**結果**がほぼ同じ。「モノが二つ以上の部分に分離される」**結果**。

■中国語と日本語の動作の表し方の違い

- ▶ 中国語の動作は、**同じ動きに見えるもの**を同じ動詞で表す。
「体の前面で手を平面に沿って行き来させる」動きに見えるものはすべて“擦 cā”。
その結果、字が消えるのか、窓がきれいになるのか、色が付着するのか、……などは無視。
- ▶ 日本語の動作は、**同じ結果が期待できるもの**を同じ動詞で表す。
「モノが二つ以上の部分に分離される」結果をもたらすものはすべて「きる」。
そこにいたる動きが、手先の動きか全身の動きか、前後の動きか上下の動きか、……などは無視。
- ▶ ただし!! 中国語にしても、日本語にしても、もちろん全ての動詞が皆そうであるわけではない。
中国語の“拿 ná”は保持すること全般を表す。
日本語の「つまむ」「かかえる」は、持ち方も表す。

■他の動作の例

- ❖ [ごみを]すてる, [酒を]つぐ, [茶を]いれる, [車を]バックさせる, [テープを]巻き戻す
は日本語は違う動詞だが中国語は同じ動詞。

→倒 dào

共通点：いれものを逆さまにして中身を空ける、逆さまに進めるという動き

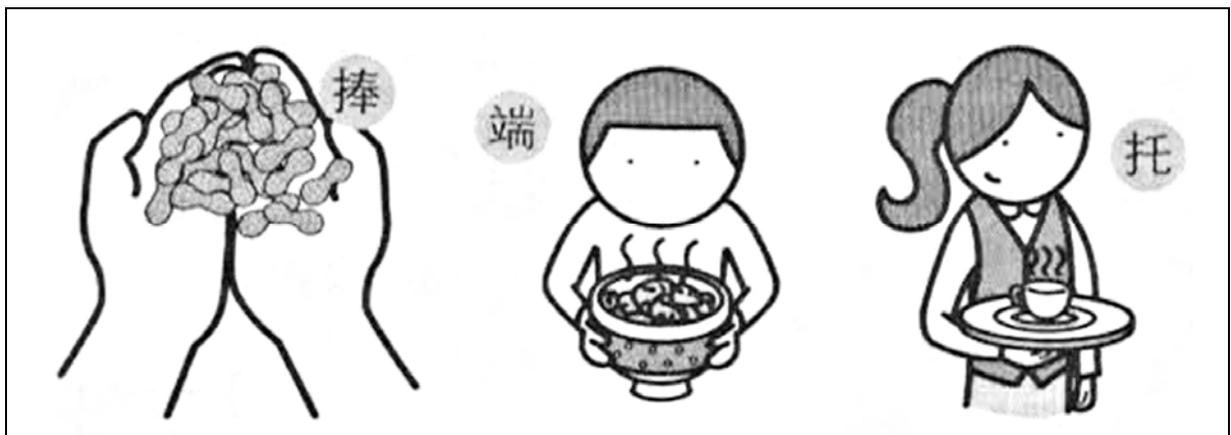
- ❖ [服を]きる, [ズボン, 靴, 靴下を]はく, [針に糸を]とおす, [穴を]あける
は日本語は違う動詞だが中国語は同じ動詞。

→穿 chuān

共通点：穴に通す, 穴を通すという動き

- ❖ [両手ですくうように]もつ, [お皿を水平に]もつ, [お盆を片手で]もつ
は日本語は同じ動詞だが中国語は違う動詞。

→捧 pěng [両手ですくうように], 端 duān [水平を保つように], 托 tuō [手のひらに載せて]



小学館『中日辞典』第3版 p.1161 より

■ここまでのまとめとここからの展開

- ▶ 中国語の動作は、同じ動きに見えるものを同じ動詞で表す。→動きを具体的に見て区別する。
- ▶ その結果がどうなるのかは無視。→動作に結果が伴わない。

■動きを具体的にることから生じること——動きで区別する

(1) 車で来た [自動車を運転して来た]

(2) 开 kāi / 骑 qí / 坐 zuò 车来的 [自動車を運転して / 自転車に乗って / 電車・バスに乗って来た]

(3) 駐車 / 駐輪

(4) 停 tíng 车 / 存 cún 车 →自転車は金銭や荷物と同じ扱い “存钱 [預金する]” “存包 [荷物を預ける]”

■結果の無視から生じること——動作に結果が伴わない

(5) ?買ったが、買えなかった。→買おうとしたが、買えなかった。

(6) 买了，但是没买到。

買う [完了] しかし [未完了] 買う 手に入れる

→買うことは完了したが、買って手に入れることは未完了

(7) ?殺したが、死ななかった。→殺そうとしたが、死ななかった。

(8) 杀了，但是没杀死。

殺す [完了] しかし [未完了] 殺す 死ぬ

→殺すことは完了したが、殺して[相手が]死ぬことは未完了

- ▶ 中国語の“买 mǎi”“杀 shā”は、パターンとしての「買う」「殺す」動きを表すのみ、「手に入る」「死ぬ」などの結果は、後ろにつく“到 dào”“死 sǐ”が表す。

■まとめ

- ▶ 日本語は「結果重視」、中国語は「動き重視」。どちらに注目するかは、世界の見方の違い。
- ▶ 日本語だけ、中国語だけしか知らなければ、違いには気づけない。
- ▶ 新しい言語を学ぶことは、新しい世界の見方を知ること。

- ▶ 漢字が同じだからといって、安心してはいけない。
- ▶ 辞書で「訳語」をみつけて、安心してはいけない。その「訳語」が本当の意味でその語に対応しているとは限らない。
- ▶ 辞書に載っているのは、その語の持つ意味の説明であって、「訳語」は訳す人自身が決めるもの。

【日本語で読める参考文献】

井上優『そうだったんだ！日本語 相席で黙ってられるか 日中言語行動比較論』岩波書店 2013 年

沖森卓也他編著『日本語ライブラリー 中国語と日本語』朝倉書店 2014 年

東京外国語大学言語文化学部編『言葉から社会を考える この時代に〈他者〉とどう向き合うか』白水社 2016 年

中川正之『もっと知りたい！日本語 漢語からみえる世界と世間』岩波書店 2005 年

三宅登之『中級中国語 読みとく文法』白水社 2012 年